

一般の部

大賞

朝六時四十分……。この時間になると、父は母の運転する車で駅に向かいます。小学生だった私はちょうど起きる時間。毎朝早起きして会社に行く父はしんどそうでした。

ある日、父の誕生日を一月後に控え、私は覚えてたの編み物で、父にマフラーを編むことにしました。父に内緒でコツコツ編み、決して上手ではないマフラーが出来上がりました。誕生日、父に渡すととても喜んでくれました。

次の日には、そのマフラーをつけて会社に行ってくれました。次の日もその次の日も、ずっと……。結局、定年まで毎年冬には、私が作ったマフラーをつけて出勤してくれました。

父が亡くなつて一年半。実家にある、そのマフラーを見る度に、私は父が毎日働いてくれたことに感謝し、「お父さんありがとう。お疲れさまでした。」と、心の中でつぶやいています。

なかざわ かおり
中澤 加織さん

